

令和4年度 第2回公立鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日 時 令和4年11月11日（金） 10:00～11:33
- 場 所 大会議室（Webexによるオンライン会議）
- 出席者 江崎信芳委員、西山信一委員、小林朋道委員、田中洋介委員、若原道昭委員、
児嶋祥悟委員、澤志郎委員、林昭男委員、山田修平委員
[9名/10名]
北野彬子監事 [1名/2名]
- 欠席者 米田裕子委員、山崎安造監事

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 審議事項

(1) 令和5年度における重点取り組み事項について

事務局から、令和5年度における重点取り組み事項について説明があり、原案について承認された。

〈主な意見等〉

- ・ 県内の就職率について、就職率の分析とあるが産業界の意向や学生の人材不足に対する問題意識についての分析はあるのか。
→現在の分析では、3年生の2月時点の就職希望を確認し、県内の企業に受け皿があるのかを分析している。
- ・ SDGsや環境への取り組み、脱炭素化への取り組みは現在では一般化した取り組みとなったが、大学として特色ある取り組みについて強化しなければならない点や変更していかねばならないと感じている点はあるのか。
→脱炭素化等一般化された取り組みに対し、研究で強みを出すことができると考えている。
- ・ 大学の情報発信について、もっと行った方が、学生生活の充実や高校生が環境大学に興味を持つきっかけになるのではないかと。

(2) 第3期中期計画コンセプトについて

事務局から、第3期中期計画コンセプトについて説明があり、原案について承認された。

〈主な意見等〉

- ・ 「2050年」という数字を入れた意図について教えてほしい。
→大学等に期待されていることについて文科省の答申等を確認し、大学の教育は短期的な目標では成り立たず、長く見据えて検討を進めるという意図で、6年先の2030年ではなく、2050年という数字を入れた。
- ・ これからの大学は、18歳人口の減少影響もあり、18歳人口だけを相手にする時代は終わるため、社会人が学び直しや働きながら学ぶ仕組みを作っていくことが大事になってくる。これからのコンセプトの取り組みに入れてはどうか。

3 審議事項

(1) 令和4年度第3回補正予算について

事務局から、令和4年度第3回補正予算について説明があり、原案について承認された。

4 報告事項

(1) 公立大学法人公立鳥取環境大学職員給与規程の改正について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学職員給与規程の改正について報告があった。

(2) 令和3年度業務実績評価書および第2期中期目標期間に係る業務実績（見込）評価書について

事務局から、令和3年度業務実績評価書および第2期中期目標期間に係る業務実績（見込）評価書について報告があった。

〈主な意見等〉

- ・ 県内入学率と県内就職率をみると、県内出身でも県外に就職している学生がいるのか。
→ 県内入学生が増えてきているが、その学生はまだ就活の学年に達していない。また、県内就職率が高かった学年の県内入学率はそんなに高くはなかった。コロナの影響により、オンラインで面接が行われるようになって、県内出身学生が県外に就職する事例が増えた。
- ・ リカレント教育について学部と大学院の社会人の人数はどのくらいか。
→ 現在は学部は0名、大学院は経営学専攻に1名

(3) 近況報告

事務局から、近況について報告があった。

5 閉会